

# 風話鈴香

8月25日土曜日。恒例の夏祭りが開催されました。特養家族会的あてや「天空」による和太鼓演奏、「ボランティアアグループ園」による盆踊りなど、皆さんと今年も賑やかな時間を過ごすことが出来ました。

25日午後から開催された特養家族会の総会で、長年会長を引き受けていただいた藤原さんから新会長にバトンタッチ。早速、夏祭りで挨拶をいただきました。園田苑厨房、特養、併設デイ、支援センター、Zenの職員がそれぞれ腕を振るい、お祭りメニューを出店しました。今年もボランティアで尼崎看護専門学校の学生も祭りを盛り上げてくれました。2年生7名、3年生1名の学生が入居者と一緒に踊るほほえましい姿を見ることが出来ました。



普段、それぞれの部署で働く職員がそれぞれの役割を担いながら関わり、触れ合う機会は年に5回の大きい行事ぐらいです。「特養入居者の行事やから関係ない」ではなく、園田苑の行事として楽しめたいなと思います。そして、園田苑の関係者だけでなく地域の皆さんも寄って関わって楽しめる祭りにしていきたいと思えます。来年は地域の皆さんにも出店をお願いしたり、一緒に祭りを盛り上げていただけるように取り組んでいきたい。そのためには私たちも地域の行事に参加し、日ごろのお付き合いを大事にしていきたいと思えます。(河合 恵子)



発行所  
尼崎市小中島1-1-18  
社会福祉法人  
阪神共同福祉会 園田苑  
TEL06-6493-3731  
発行責任者  
理事長 中村 大蔵

## 私達の目指すもの

- 一、地域に開かれた施設
- 二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！
- 三、老人と共に生きがいを見い出す生活を

社会福祉法人 阪神共同福祉会 園田苑

## グループハウス

### 夏祭り

8月4日(土) 晴天。半端ない暑さの子どもたちを招き夏祭りを行いました。ハウスで子ども食堂を開いているすこやかプラザの方が手作りのワニワニパニックゲーム、その隣でホットプラットの方がスイカ割り。たく棒が割れるハプニングも。焼きそば、タコせんも子どもたちに大好評。夏らしく大いに盛り上がりました。

園田学園女子大学のボランティアは4名参加。スーパースポーツにジュース販売。子どもたちの相手してもらい、とても助かりました。

部屋の中の射的では子どもたちの列ができ、当てもんで大きな声飛び交い、駄菓子の取り放題では大人も子どもも必死。うれしくて走り回っている子どもたちの姿を見て入居者も楽しく微笑んでおられました。



たこ焼き、唐揚げ、フランクフルトに土手焼き。夜店のメニューでおなかいっぱい。来た人みんなが笑顔になった夏祭り。これからもずっと続けられたらいいと思えました。(グループハウスヘルパー 谷井 利彦)

## やって来ました10月12日

### 創立記念日!

理事長 中村大蔵

今年も創立記念日が近づいて来た。今年30年の節目でもある。節目といっても特別なことはしない。毎年のように利用者に美味しいものを食べていただき、家族・ボランティア・役員ともども楽しいひとときを過ごす。

何人かの利用者にとってはこれが園田苑最後の大きな行事になる。だから毎年のこととはいえず、手を抜くわけにはいかない。

10月12日が迫ってくると、園田苑を開設した当初が思い出される。荒れていた園庭を、いろんな人たちから頂いた草木で飾ったこともその一つである。

自慢じゃないが今あるものほとんどは、カネで手に入れたものではない。もともと金銭的には全く余裕がなかったのだが、その後の手入れや植栽はもっぱらボランティアの手になるものである。

第一回の創立記念行事から欠かさず参加している役員はもうごくごく僅かとなった。だが、ボランティアはほぼ皆さん皆勤である。彼女たちは新しい年を迎えるや、先ず10月12日に何も予定を入れない。ある時、「今年の創立記念行事は外の会場で行うか」と言った。すかさず「それでは入居者の参加が少なくなるではないか」と一蹴された。

ボランティアにとっても10月12日は重大な年間行事である。そして、入居者・利用者の存在を、片時も忘れることはない。

# 地域の夏祭りに参加

7月21日(土) 22日(日) 5名の利用者と小中島公園で開催された夏祭りに参加させていただきました。

蒸し暑く、来客者も多かったのですが、飲みたい物、食べたい物を一緒に買い、その場で食べて、祭りを楽しみました。

盆踊りの太鼓の音を聴いて「懐かしいね」と手拍子されたり、偶然、知人に再会される利用者は泣いて喜ばれ、会話を楽しまれました。



「良かったわあ。ありがとう」と言ってくださり、たくさん笑顔を見られて、来年も一緒に参加できたらいいなと思いました。

(小規模多機能ヘルパー 馬場 ゆかり)

# 夏の締めくくりは

## 流しそうめん

8月25日(土) 苑デイサービスで流しそうめんを実施しました。今回は、4月から大阪コミュニケーションワーカー専門学校に留学しており、園田苑でアルバイトをしているサリさんが初めて流しそうめんを見ました。

「日本の文化を経験させてもらえたし、利用者さんの笑顔や喜ばれている姿を見て良かったです。私もすごく嬉しかったです。」

(併設デイヘルパー サリ プジヤンティ)



8月28日(火) 認知症対応型デイサービスでも「ボランティアグループ園」の会員さんにお手伝いいただき、皆でおいしいそうめんや揚げたて天ぷらを食べ夏を満喫しました。

# 子ども夏祭りに参加した夏

野土香 夏休み「お昼ごはん会」に参加して

8月1日、6日、20日、27日、29日開催

園田南地域包括支援センターに入職した3名の職員が初めて「お昼ごはん会」に参加しました。

今年の夏は「酷暑」と言われるほど暑く、野土香のエアコンもなかなか効かない時もありましたが、「ごはん会」に来てくれていた子ども達は、暑さもおかまいなしに元気いっぱいでした。「坊主めくり」や「とと(魚)あわせ」では、低学年の子も高学年の子も一緒にあって、白熱したバトルが繰り広げられ、学年を超えた交流が生まれているなと思いました。

「みそ汁がおいしい」と目を輝かせる子、あつと言う間に平らげておかわりをする子など、ご飯を楽しみにしてくれている子どもたちがいるのは、本当に嬉しいことだと思います。(保健師 立浪 雅美)



初めて「ごはん会」に参加した。子ども達に振り回され「アツ」と言う間に時間が過ぎた感じであった。まず、最初に子ども達と「坊主めくり」をすることになり、私は四苦八苦するはめになった。子ども達独自のゲームのルールについていけなく「おぼちゃん、何してんのん」と言う子や「そんなん言うたらアカンやん」「お姫様が台に座ってたら、もう一枚めくれるよ」と慰められたり、一緒にシャボン玉をして遊んだりした。子ども相手に本気で腹がたったり、「親切に教えてくれてありがとう」と色々な感情が入り混じった日であった。

さい私のことを少しでも思い出してほしいなと思う。次回ごはん会で会う時は、どんなふうに成長しているか楽しみである。



「ごはん会」に参加する子どもたちは、様々な理由で一人で食事をする子、家に食事を作る人がいない子等であると聞く。さみしい思いをする子ども達にとつて、地域のボランティアの人や地域の子どもの交流の場である、とても良い事と思う。子どもだけでなく一般人、ボランティアの人の参加を増や少しでも食糧費を増やし、「ごはん会」の継続につなげたいと思う。また子供たちに楽しく皆で食事をした思い出を作りたいと思った。

食材費の確保、調理して頂いているボランティア活動の方たちは、継続のために私のしらない色々な苦労、工夫をしている。本当に頭が下がる思いである。

(社会福祉士 舛田 頼子)

私が参加した最終日は11人の子も達が増えてきた。憎まれ口をたたく子、人なつっこい子、周囲の反応を気にする子など色々な子どもがいた。育った環境は違うだろうけど、みんな大人にかまってほしいということ、共通しているように感じた。

食事の食べ方やマナー、人との関わりかたなど、私自身も親や近所の人に怒られたものだが、今はそういう関係性も希薄なのかも知れない。わが子に接するように子ども達と接し、口うるさいおぼちゃんになってしまったかも知れない。でも次回も口うるさいおぼちゃんのように接し、子供たちの笑顔と成長を感じたいと思う。(看護師 山崎 朋美)

お昼ごはん会を開催するにあたり、食材の提供、おやつを提供をいただきありがとうございます。陽だまりのボランティアさんにはお忙しいご飯ごちそうさまでした。地域の力に感謝いたします。

園田苑のホームページ  
頑張っ更新していきます！  
ショートステイ空き情報  
行事の予定・報告など

[そのだえん 検索](#)

[一緒にお仕事しませんか？](#)  
[阪神共同福祉会 検索](#)

## 法人理念

阪神共同福祉会は  
すべての人の命を大切にし  
地域福祉の担い手となる

## 編集後記

暑い季節も少しずつ過ぎ過ぎやす季節へと移りはじめた今日この頃、色々大変な思いをされた方々がいると思います。でも前向きな思いで進んでいければと思います。頑張ろ〜！  
(だるま大使)

出勤時のお見送りの言葉。

長女7歳「お仕事体壊すからあまり無理しないでね。」優しい……

長男4歳「お仕事全力で頑張っ！全力で！！！」と親指を立てる。かなり厳しい！

(ものぐさガエル)

信号機の明かりが点いていない大きな交差点を車で通行する恐ろしい感覚。街路樹が、アスファルトごと捲れる様子。ほとんどのガラスが割れているマンション。記憶と経験を次に繋ぐということ。痛い思いをした瞬間に湧き出る大切な感覚を、持続することの難しさと同時に再確認しました。  
(きりん)

台風21号が通過し、まさか停電になるとは思っていなかった。雨風が止めば普通の生活が送れると思っていた。どんな時も非常時の事を考えて生活を送る。その時に備える。当たり前がありがたいと心から思った。  
(きんたろう)